



青き楓

島高だより
令和4年 11月号
(通巻第200号)
長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

職員室から

「島高123年目の文理探究科として」

探究科主任 松永 俊

令和5年度より文理探究科が開設されます。その準備のため、様々な研修会に参加し、先進校視察に取り組みました。その活動の中で感じたことの一端をお伝えします。

開設準備は、「探究的な学びとは何か」を考えることから始まりました。書籍に触れ研修会に参加して見えてきたのは、生徒が主体的に課題を見つけそれを協働的な活動によって解決して行く、「主体的・対話的で深い学び」という学習指導要領に記された学びの姿そのものでした。しかし、自分が理解・納得して行く中で壁にぶつかりました。この理念をそのまま受け入れることへの危うさでした。理念やイメージが美しく立派であるほど気をつけなければならない、これは授業改善・授業改革を模索してきた中で得られた生きた教訓です。「アクティブラーニング」的授業への挑戦を続けていた際、授業前夜の構想やイメージが完璧であるほど翌日の授業は悲惨に終わっていました。思い通りの授業とは程遠く、空回りする自分。これを続けていけば気づくことがあります。それは構想や理念には「生徒」という生きた存在や、「授業」「学校」という生きた空間が抜け落ちているということです。シャドーボクシングの相手のように期待通りに発言し、活発に話し合い、深い理解に至る生徒などそこにはおらず、一人ひとり異なる思いを持った生徒たちが、毎日違うコンディションで登校し、午前か午後か、晴天か曇天かによっても変わってしまう授業という生きた空間がそこにある。理想とする「探究的な学び」を求めながらも、現実との乖離に陥ってしまう危険を経験のアンテナが感知していました。合わせて感じていたことは、「島高らしい文理探究科とは何か」という疑問でした。新たに開設される県内5校で同じことを行うのでは、島高らしさはどこへいくのか。そもそも島高らしさとは何か。

この危うさと疑問への答えは『島高120周年記念誌』作成でした。それを通し明治から受け継がれてきた伝統と歴史に触れました。多くの写真や記録に触れる中で、100年以上前にもここには若者たちが学んでいたことを実感しました。多くの白黒写真の中には18歳の父の姿もありました。兄の顔とよく似た制帽をかぶったその面差しは、島高の歴史と私個人の島高観が重なる姿でした。これを思い出した時、自分の中で島高文理探究科のイメージが確かなものになった気がします。新たに開設される学科ではあるが、これは島高123年目の一歩なのであり、これまで先輩方・先生方が丹念に積み上げてこられた盤石の土台の上に積み上げられる新たな礎なのだ。もし古いものを否定し、捨て去ることで新しいものを作ろうとするのであれば、島高は島高でなくなってしまう。伝統の理念・校是・制服・行儀作法は、新しい理念と矛盾するものではないのだと思ひ至りました。

目指すべきは、島高の伝統・歴史と地続きの文理探究科。その完成のために今後さらに多くの生徒の皆さんや先生方、卒業生の皆様や地域の方々の方が必要となります。島高の新たな一歩のために力をお貸しいただくことを、切にお願い申し上げます。

人生の達人セミナー・島高青楓塾

教務部



11月16日(水)、勝矢圭一さん(本校第44回生)に「福祉の今と未来～福祉を産業化するか、産業を福祉化するか」と題して、講演していただきました。福祉とは、「**心**だんの、**く**らしを、**く**あわせに」する営みであるとして、すべての産業が福祉的な要素を持っていること、福祉的な視点を持って仕事をする大切さを教えていただきました。ともすれば、福祉や介護に対して負のイメージを抱きがちですが、今回の講話を機に考えを新たにしたいと思います。講演会後は、希望生徒による座談会を実施し、盛況のうちに終了しました。

【生徒感想】

- ・福祉とは、人々を笑顔にできるものだと知りました。
- ・将来に向けて「何をしたいか」は大切だが、「どうなりたいか」がもっと大切である。という言葉には、とても共感できた。
- ・自分の信念を貫くだけでなく、時代に合わせて柔軟な姿勢で臨機応変に動くことも大事なんだと気づいた。



理数科地学巡検

理数科

10月25日(火)に理数科1年は島原半島ジオツアーに出かけました。案内者は島原半島ジオパークの専門家でもある理科担当の寺井先生です。①千本木展望台では平成噴火の火砕流被災地と200年前の焼山溶岩流、4000年前の眉山火山、1万3000年前の千本木溶岩を見学しました。②平成新山ネイチャーの崖では地層を観察することで火山噴火の歴史を復元することができることを学びました。③1991年9月に焼失した旧大野木場小学校は火砕流の後、火災が発生し焼失しました。④深江、布津断層は緑の帯でした。⑤西有家の龍石海岸では、雲仙が誕生する前から雲山火山の始まりまでの地層を観察しました。石ころの形や大きさから、雲仙火山が成長していく様子がわかるという興味深い崖でした。また60万年前、大分県から来た由布川火砕流の軽石を観察しました。⑥口之津町の早崎海岸では黒い玄武岩を観察しました。430万年前の島原半島の始まりの様子がよくわかりました。⑧最後は加津佐町津波見です。ここでは大きな輝石を含むめずらしい安山岩を拾うことができました。

【生徒感想】

地学にあまり興味を持っていなかったけど、実際に崖に触れたり、岩石を割ったりしてとても興味を持てた。竜石海岸や早崎半島を見て教科書では感じられない迫力を感じることができた。このような素晴らしい体験ができて、理数科に入ってよかったと思いました。



12月の主な行事予定

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 3日(土) 土曜講座(3年) | 24日(土) 土曜講座(3年) |
| 5日(月) 歳末助け合い募金(~9日) | 26日(月) 3年共通テストプレテスト(~27日) |
| 10日(土) 3年共通テストプレテスト(~11日) | < 1月 > |
| 13日(火) 2年修学旅行(~15日) | 4日(水) 3年共通テストプレテスト(~5日) |
| 17日(土) 県下一斉実力テスト(1・2年) | 6日(金) 冬季補習(全学年)(~7日) |
| 土曜講座(3年) | 10日(火) 3学期始業式 |
| 19日(月) 三者面談(~23日) | 校内実力テスト(1・2年) |
| 23日(金) 2学期終業式、表彰伝達式 | (~11日) |
| | 14日(土) 大学入学共通テスト(~15日) |